

伊藤梅子「伊藤梅子書簡」

明治41（1908）年12月4日

時分がらとは申なから

殊にさむさ深ふに相成候

ところ、折から御障り様

もあらせたまはづ先々

御機けん様よろしく

わたらせ候御事、誠に

有かたく御愛度深ふ

御よろこひ申上度候。左様

に御座候へは、その御地の

御さむさの御様子、新聞に

て拝見申上て、嘸かし

御こまり様ならんと日々

御案事申上候。何分御大切に

遊はされ候て御障りなき

御事いのり申上居候。先日

ばかん（馬関カ）に御立より遊はされ候

折は、久子・しづ子・その子

それ／＼御いたゞき物いたし、

安井久子・宮崎しづ子

兩人供深ふよろこひ候て

御礼もわたくしより申上候

様申出候。かづおふき中

それ／＼おほしめし深ふ

いたゞき候事、かへす／＼御礼も

あつう申上度候。その後は

御引つゞき遊はし井上様

ます／＼御心よくあらせられ

誠に愛度ぞんじ候。生子も

仰つけられ候洋服にて

心祀（ママ）申上候なから十日頃には

洋服も出き候御様子にて

そのうへは

韓国皇太子殿下の所に

おさめ申上候様只今申参り、

其後は久々にて大磯にも

参り度様申参り、末松にも

元氣にて日々出かけにも

相成候。西にも先頃より

日々つとめに相成、また

博邦も無事につとめ居候

様子申参り、朝子・たま子・

清子もいつれも無事に御座候。

御いとる遊はし、くれく

恐ながら御安心願申上度候。

御障り様のなき事

大磯も昨夜より誠にく

御願申上度候。愛度かしく。

ひえく敷相成候ながら、

梅子

御かけ様にてわたくし事

伊藤公爵様 御許へ

無事に暮し居候まま、何も

御安心被下度候。先頃より

御願申上候久子の子供の名を

よろしく御願申上度候。

あなた様大磯御出立後

十五日に雨ふりし後さらに

雨もふらず、たゞうへ木に

まき候みづきれ候事にて

大にこまり居候。多分雨に

相成候時はまたふりつゞき

候事とそんし居候。何もく

御機けん御伺ひまでに

申上残し候 　　あらく愛度か

しく

十二月四日

なほく折から時かふ